

13:1 その日、民が聞いているところでモーセの書が朗読され、その中に、アンモン人とモアブ人は決して神の集会に加わってはならない、と書かれているのが見つかった。

13:2 それは、かつて彼らが、パンと水をもってイスラエル人を迎えることをせず、かえってバラムを雇ってイスラエル人を呪わせようとしたからであった。私たちの神はその呪いを祝福に変えられた。

13:3 民はこの律法を聞くとすぐに、混血の者をみなイスラエルから切り離れた。

13:4 これより以前、祭司エルヤシブは、私たちの神の宮の部屋を任されていて、トビヤと親しい関係にあったので、

13:5 トビヤのために一つの大きな部屋をあてがっていた。以前その部屋は、穀物のささげ物、乳香、器、またレビ人や歌い手や門衛たちのために定められていた、穀物と新しいぶどう酒と油の十分の一、さらに祭司のための奉納物を保管するところであった。

13:6 この間ずっと、私はエルサレムにいなかった。私が、バビロンの王アルタクセルクセスの三十二年に王のところに行き、その後しばらくして王にいとまを乞い、

13:7 エルサレムに帰って来たからである。そのとき私は、エルヤシブがトビヤのために行った悪、すなわち、神の宮の庭にある一つの部屋を彼にあてがったことに気づいた。

13:8 私は大いに気分を害し、トビヤ家の家財をすべてその部屋から外へ放り出し、

13:9 命じて、その部屋をきよめさせた。そして私は、神の宮の器を、穀物のささげ物や乳香と一緒に再びそこに納めた。

大いなる喜びからモーセの書の朗読に移りました。このように主の前の喜びは主のみこころを聞くためにあります。私たちも礼拝で、大いなる喜びの賛美の後に、主のことばを聞きましょう。

トビヤは再建工事を邪魔した者でありましたが、人間的な理由で神殿に利権を持っていました。そのようなことは、神よりも人の都合を優先させるものですから、ネヘミヤはこれを処分したのです。

私たちも、自分の都合や利権で、神様の利を損なっていないか考えてみることも大切です。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情やしよ願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

